

地理 大阪大学（前期） 1/2

(I)

問 1	(1)冷帯はほぼ北緯 40 度以北に分布するが、南半球の同じ緯度帯は大部分を海洋が占めるため気温の年較差が小さく、冷帯の条件である最寒月平均気温 -3°C 未満、最暖月平均気温 10°C 以上にならないため。(2)巨大なユーラシア大陸の北東部は隔海度が大きく、冬厳寒となり強い高気圧が発達して少雨となるが、他にそうした大陸はないため。(153 字)
-----	--

問 2	いずれも年降水量が乾燥限界を下回るステップ気候のため、夏の短い雨季の間に成長するアワやモロコシなどの雑穀を、主に天水に依存して自給的に栽培するが、生産性は低く降水量の変動により生産量の増減が著しい。(99 字)
-----	---

問 3	乾燥気候のため、地下水を汲み上げ、回転するアームに付けたスプリングローで散水するセンターピボット方式で灌漑が行われ、トウモロコシや小麦を栽培しているが、過剰灌漑による塩害や化石水である地下水の枯渇が懸念される。(105 字)
-----	--

地理 大阪大学（前期）2/2

（Ⅱ）

問 1	東北・北海道沖の太平洋では黒潮と親潮がぶつかる潮目が形成され、日本海には対馬海流とリマン海流が流入し、大陸棚と大和堆などのバンクも発達することから共にプランクトンが豊富で、暖海性、寒海性の多種の魚が集まる漁場をなしている。日本は海洋に囲まれた島国で、山がちであることから沿岸部に集落が成立して早くから多様な魚食文化が生まれ、近代以降は大都市を中心に水産物需要が拡大し、漁法や加工技術も発達して生産量も増加した。(205 字)

問 2	海面漁業は 1990 年頃まで増加し生産量の大部分を占めていたが、乱獲による漁業資源の減少、資源保護などの観点から各国で漁業規制が進み、生産量は横ばいとなっている。内水面漁業や内水面養殖業、海面養殖業では、主にアジアの人口増加や経済発展にともなう国内向けの食用需要が増えており、安定的生産が見込める養殖業生産量の増加が著しい。また海面養殖業では工業原料の海藻類などの生産や、エビ・サケなどの輸出向け生産も拡大している。(204 字)

問 3	被災した港湾施設や漁船、養殖場、また水産加工業などの関連工場の回復は依然として不十分で、被災地では人口流出や転職者も多いことから漁業従事者や関連工場の従業員が不足しており、流通網や流通経路とともに回復が必要である。さらに原子力発電所からの処理水が水産資源を汚染するという風評被害への対策も求められている。(152 字)